

## 平成30年度第9回霞ヶ浦自然観察会実施結果報告

「川に帰ってきたサケ」を実施しました。

日 時：平成30年11月17日（土曜日）午前9時30分から午後4時まで

場 所：筑西市鬼怒川，サケふ化場および五行川

参加者：42名

結 果： 今回の観察会は実施場所が遠く、また、サケの捕獲を10時から行うということで、集合時間を少し早めに設定したので時間に余裕がない日程になりましたが、参加者のみなさんは集合時間までに揃い、予定時間に筑西市の鬼怒川に到着できました。バスの中では中村パートナーの協力を得て、サケの一生、産卵、ふ化事業について説明を行いました。

到着後、捕獲場まで徒歩で移動し、早速、捕獲のオリに入ったサケを水揚げするのを見学しました。子供たちは生きているサケを手で持ち上げて、喜んでいました。ずっしりとした大きなサケの重さを感じていたようです。バスに戻り、ふ化場へ移動し、採ったばかりのサケからの採卵、受精を見学しました。メスのサケの腹を裂くと、卵であるイクラがたくさん流れ出て、それを皆さんは声も上げず、真剣に見つめていました。受精作業では卵にオスの腹を絞ると、白い精子が勢いよく出て、赤い卵の入った容器の中は真っ白になりました。外に出て、鬼怒小貝漁業協同組合の人見副組合長からサケのふ化事業についての説明を聞きました。質問に移ると、たくさんの大人が囲む中、2名の小学生がものおじもせず、すぐ手を挙げ質問したのは、驚かされました。質疑応答が終了し、ふ化場を出発して二宮にある道の駅に移動して昼食としました。

昼食後、五行川に移動し、仙在橋でバスを降り、橋の上から川を覗き、上流に向かって泳いでいるサケを見ました。その後、河原に降りて浅瀬で産卵するサケがバチャバチャしているのを見学しました。川にある堰近くでは堰を上るサケを見学しました。子供たちは水流に負けずに段差を上るサケに「がんばれ、がんばれ」と声援を送り、また、大人たちは「今度は何段目まで上がった」とみんなでサケの動きに一喜一憂をしていました。堰の所から離れずいつまでも見ていましたが、帰りの時間になり名残惜しそうにバスへ戻りました。

漁協から今年は遡上するサケが少ないと聞いて、遡上するサケが見られるか心配しましたが、多くのサケ、特に堰を上がるサケがよく見られ、無事に観察会は終了できました。風もなく、天候に恵まれた1日となり、参加者の皆さんは今回の観察会で、生命のたくましさを感じ、さらに、サケについて再認識して、それぞれ満足をした1日となったようでした。

次に観察会の様子を紹介します。

(腰塚昭温)



サケの捕獲



ズッシリと重いサケ



採卵



受精



人工ふ化についての説明



サケ遡上の見学



遡上するサケ



堰を上がるサケ